

4月の第1週、爆弾低気圧をもとめず、テレマークスキーをこよなく愛する者達の真剣なパフォーマンスと交流が志賀高原焼額山スキー場で行われました。初日は朝から春の嵐が到来、他のスキー大会が全てキャンセルされる中、テレマーカーは悪天候を問題とせず続々と到着しました。リフトが運行中止となりましたが、選手会では”ハイクアップにより決行”と全員が賛同、力強く大会の幕を開けました。

**Yakebi Cup**・・・クラシックレース1走。強風のためゲートフラッグなし、滑らない悪雪に苦戦しみながら力走を繰り広げました。

**技術コンテスト**・・・初日 2 種目（ショートターン、ロングターン）雨に雪、グレンデコンディションは厳しいが選手にとっては晴れの舞台、意を決して次々にスタートし最高のパフォーマンスを発揮しました。二日目 3 種目（総合滑降、不整地小回り、ジャンプ）天候はやや回復しリフトが運行しましたが、目まぐるしく変わる天候の中で悪雪をもとめせず難しい種目に全員が挑戦し完走しました。

**テレマーカースナイト**・・・初日の夜、競技の間のため控えめな企画でしたが、テレマーカーのジャズトリオ、地元の酒造会社の地ビール、協賛品の抽選会などに大いに盛り上がり、テレマーカーの交流を深めました。志賀高原プリンスホテル、志賀高原焼額山スキー場関係者による柔軟で破格のご対応で成り立った大会でした。ご協力を頂いた協賛各社および地元のタクトスポーツ、玉村酒造、参加されたテレマーカーと応援の方々、皆様ありがとうございました。レースの技術や用具が特化した現在、多くのテレマーカーが共通して競い、楽しめる大会として技術コンテストが定着したと思えます。新シーズンも技術コンテストは教育事業部が開催する予定となりました。さらに、新たに富士でも有志による大会が開催が計画されており、沢山のテレマーカーが技を磨いて大会に臨みテレマークスキーの魅力を堪能されること期待您的であります。

**\*Youtube で映像を配信中** <http://youtu.be/heRNXwwDR7g>

最悪の天候の中で撮影した記録のダイジェスト版で、楽しい交流シーンよりも各選手の滑る映像を優先したものです。悪天候のため大半がD-I付近から撮影の映像となっております。参加者 / 雪上バ-T参加者 合計 67 名・ホ-ルレーヴ\*10 名、・技術コンテスト 42 名、・Yakebi Cup15 名 テレカ-ズナイト 参加者 約 100 名

TAJ主催としては初の未経験者対象のイベントを開催しました。対象は夏山経験のあるアウトドア好きの女性。イベント専用ホームページを作り、フェースブックでの告知、ランドネ、ピークス（雑誌）に加え、山ガールネットというサイトを使っての告知を行い、9名の女性にご参加いただきました。

**1日目 晴れ** / 11時 30分 白馬駅集合。皆で宿に移動してウエアに着替へ。山ガールの集まりということでカラフルなウエアが勢揃いで華やかです。普通のスキーの経験のある方、全く雪上スポーツ初めての方いらっしゃいましたが、テレマークは皆初心者。乾燥室でブーツフィッティング。まだこの時は皆緊張している様子です。ブーツを履いたらシールの貼ってある板を持って若岳スノーフィールドへ。初日は時間もないし、リフトは使いません。まずは道具になれていただくために、シールつけたまま平坦地をひたすら歩きます。少しなれてきたところで、2メートルくらいの高さからシールをつけたまま滑りおりにみます。スキー経験ある方は難なくこなせますが、経験ないかたにとってはこれまた一苦勞。しかし、ノリの良いメンバー勢揃いで貰っ新な雪の上に人文字作りをやろうとどこからともなく声があがり、作った文字は TAJ。この時点で全体の雰囲気は非常に良くなってきました。そろそろなれたところで、ティータイム。特設屋台にておやつと飲み物を召し上がりいただきつつ身体を休めていただきます。その間我々スタッフは皆のスキーからシールをはがして収納。休憩後は先ほどと同じように歩いたり滑ったりしてみたりしますが、シールがあるときと全然感覚が違いなかなかうまくいきません。1日目グレンデはこれにて終了。宿で入浴、ヨガタイム。そして夕食後はミーティングです。そこで質問タイムを作ってみたら、テレマークってなんですか?という質問があり、先ほどやったあれですよ～と爆笑。

**2日目 雪** /朝食後スキー場に移動してグレンデ講習。前日に道具に少しなれてきたので、初心者ながらがんばって滑ります。とてもとても寒い一日でした。お昼ご飯はこちらで用意したのですが、グレンデ食堂は混雑が予想されたので、お外ごはん。風も強く外で食べたい気分にならないほどの寒さでしたが、大がかりな雪のテールルに歓声があがり、みんな雪のテールと料理の撮影タイム。午後も講習を行い下山。麓ではイベント協力メーカー MAMMUT さんよりお借りしたピーコン、MAMMUT PULSE Barryvox を使ってピーコン探しゲーム。簡単に使い方を説明すると皆ピーコン持って楽しそうにサーチ。宿に帰ってからもっとピーコンやりたかったとのご要望もあり、今後道具を買うにあたって実際に手に触れて使ってみるといのは非常に良い機会だと感じました。宿に帰ったら参加者は温泉に。今日もヨガで疲れを抜いて夕食&懇親会。そして翌日のツアーに差し支えない時間に解散。

**3日目 雪(吹雪)** /朝食後スキー場へ。スキー場からクロカコンコースを抜けてツアーをおこないました。通常なら決してツアーやりにくくなる程の吹雪でした。しかも前日から降り続いて膝ラッセル。安全な場所にきたら交代でラッセル体験してもらいます。今日はスベジナルランチを用意したので、ランチの準備員と我々の到着時間をあわせなくてはならず、時間調整が大変、、、とそへかもしかの雪子ちゃんが登場。まるで置物のように身体をうごかさず首だけ左右にうごかして、こどもも撮影タイム。野生動物を至近でみられたので皆のテンションは上がってきました。ランチは雪予報だったので雪のテールルにタープをつけてレストランのような作り。当日まで私自身できあがりを見ていなかったのので出来映えに感動。ランチは雪山といえはチーズフォンデュ。まずはジャンパンで乾杯といきたいところですが、ツアーの途中なのでノンアルコールスパークリングワインで乾杯。楽しいランチタイムが終わり、登ったり、下ったりしながら下山し、登り口とは違うところに迎える車がきてくれました。宿に戻るかと宿のおかあさんがお餅をついて帰りを待っていてくださいました。そこでアンケートをおこない、再会を約束してイベントは終了しました。

アンケートからはイベントに対してほぼ満足して下さっているようですが、今回のイベントの目的はテレマーク人口を増やすこと。その後 9 人のうち何人がテレマーカーになってくださったかは不明ですが、そのうちのお一人はご主人と一緒にテレマークイベントで偶然再会し、夫婦揃って道具買っちゃいました!とのこと。このイベントをきっかけに少なくとも 2 人のテレマーカーが誕生したのだから成功ですね。今回は道具を提供してくださったロストアロー、キャパパン、マムート、事前フィッティングに協力してくださったショップ、若岳スノーフィールド、宿泊地きぬが荘様のご協力により無事開催することができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

教育事業部		
<b>★TAJ公認指導員資格者の研修会</b>		
12/18(水)～19(木)	指導員研修会Ⅰ	ニセコグラン・ヒラフ
1/7(火)～8(水)	指導員研修会Ⅱ	ブランシュ
2/4(火)～5(水)	指導員研修会Ⅲ	赤倉
2/15(土)～16(日)	指導員研修会Ⅳ	ブランシュ
3/5(水)～6(木)	指導員研修会Ⅴ	蔵王
5/13(火)～14(水)	指導員研修会Ⅵ	乗鞍岳
<b>★テレマーカーの技術向上 レベルアップしたい方の為の講習会</b>		
2/15(土)～16(日)	レベルアップ講習会	ブランシュ
<b>検討中</b>	レベルアップ講習会	検討中
<b>★TAJ公認指導員をめざす方へ</b>		
1/25(土)～26(日)	指導員受験者講習会	ブランシュ
2/26(水)～27(木)	スキルアップ講習会	ブランシュ
3/18(火)～20(木)	指導員検定会	ブランシュ
4/5(土)～6(日)	TAJテクニカルコンテスト	志賀高原焼額山スキー場(予定)
レース部		
2/15(土)～16(日)	キリンカップ 第28回 裏磐梯テレマークフェスティバル in 沼尻	沼尻
<b>キリンカップ主な内容</b>		
2/15(土)	ファンレース Nord-X	ファンレース ばんぼーレース
2/16(日)	ノーエッジレース(あちのくシリーズ)	クラシックレース(本格的ポールレース)
3/15(土)～16(日)	第28回 秀岳杯テレマークスキーレース	三笠市桂沢
<b>秀岳杯主な内容(予定)</b>		
3/15(土)	お気軽GS、細板レース、太板レース、極太レース、ノーエッジレース	
3/16(日)	お気楽スプリント、スプリントレース (本格的ポールレース)	
<b>検討中</b>	第5回 WING-CUP	菅平高原(予定)
バックカントリー部		
イベント未定	計画中	

\*他イベントはスケジュールが決まり次第に順次TAJホームページに掲載いたします。



## 2013～14シーズンに向けて

皆様、お変わりなく元気にお過ごしでしょうか。もうすぐスキーシーズンが始まりますので準備や計画をされていることと思います。日本テレマークスキー協会も発足し来年 2014 年について 30 年目のスキーシーズンを迎えようとしています。

2013～14 シーズンの計画、活動が遅くなり申し訳ありません。現在の状況ですが新しく引き受けてくれる理事候補と会計、監事が決まったところです。事務局は 12 月末までは神戸ですが次はどこになるかは今の所未定でまだ決まっていません。そのような状況ですので今でもよりも皆様方にはご不便、ご迷惑をお掛けいたしますが何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

日本テレマークスキー協会は 30 年、若返りを図り新しく生まれ変わる時期になりました。今までと同じような、ニュース等の発行など、広報活動はボランティアで賄われていましたが数年前からかなり限界にきていました。紙にこだわりはありましたが出来るだけ合理的に会を運営する必要がありインターネットがあたりまえになった現在、TAJ ホームページで情報をお知らせし広報、事務局の負担を減らす考えです。もちろん必要な手紙ではならない部分は今までのようにニュースとしてお知らせいたします。

いつもの年は郵便振替にて年会費を取っていたいていましたが、2013～14 シーズンよりスポーツエントリーにて会費を納入していただきます。これにより事務作業の負担を減らし会費は年間 14,000 から 12,000 に値下げいたします。家族会員は今まで 12,000 でしたがこの制度は廃止し、一会員年会費 12,000 となりますのでよろしく願いいたします。しかしながら出来る範囲でより良いサービスを続ける努力はいたします。話が変わりますがこの 30 年、どちらかというテレマークスキーの道具は滑りの追求という形で変化しました。細板・革靴・3ピン金具という所から始まったテレマークスキーは太板・プラスチックブーツ・ウオークモード付ケーブル金具などが一般的になりました。技術の方ではグレンデやパウダー、山を滑るというところでヒールフリーの可能性信じて挑戦しテレマークスキー技術を上げ、アルペンスキーまでのターンスピード無理ですが、条件によってはアルペンとそれほど変わらないテレマークターンが出来るようになりました。テレマークスキーはアルペンスキーと比較されてヒールフリースキーでダウンヒルすることも対してアルペンスキーと同等に自分に対する満足感や他に認知してもらいたい気持ちもあったので、今までの 30 年は道具や技術に於いて本当に発展的で変化のある 30 年でした。テレマークスキーのレースでは種目、ルールはほぼ決まった感がありますし、テレマークスキーの指導の仕方というものもほぼ確立しています。山を滑るということも一般的な山スキールートならば普通にテレマークスキーでテレマークターンを楽しむことができます。しかしながら、テレマークスキーが一般的になるほどなぜか昔のようにヒールフリーのテレマークスキーに対しての強いこだわりを持つ熱い人達は少なくなったように思います。初期の頃の道具のようにクロカコンとアルペンスキーの中間的な感じであり、道具的にすごくシンプル、そしてスピリッツは自由な気持ちがあってテレマークスキーに取り組んで、滑りのスタイルにはこだわらず自分流、そのような人達はテレマークスキーをしているというだけで日本全国どの地域の人達も、お互いを理解しあえてすぐに友達になりました。これは楽しい思い出であり、今でもテレマーカー同士の結びつきは他のスキー、スノーボードよりも強いと思います。そこがテレマークスキーの良さの一つだと感じています。

最後にこれからの協会の活動ですが、テレマークスキーの指導に関しては教育事業部で今までも同じく行います。レース部はシリーズレースとしてポイントを獲得しシリーズチャンピオンを決めていましたがレース数の減少、本格的にレースを行っているレーサーの少なさもキリンカップ、秀岳杯杯はファンレースを交えた大会を行い色々なレベルのテレマーカーが楽しめるイベントを目指します。よって 2013'14 シーズン、シリーズ戦ではありません。少しでも多くの方にテレマークスキーレースに参加していただき底辺を拡大する必要があるので、トップクラスのレーサーや、海外の FIS 大会をめざすレーサーは新しくレース部の下部組織として「選手強化・国際レースプロジェクト」を発足させます。世界をめざすレーサーはまずはここに所属してもらい FIS 国際レースに出場する場合「選手強化・国際レースプロジェクト」の推薦、TAJ 会長の承認を得て SAJ の許可で参加することになります。代表は国際レース経験豊富で FIS テレマーク委員の畑 あやのさんです。よろしく申し上げます。

テレマークスキーの最大の楽しみはパウダーを滑ることや、歩いて山を登りテレマークスキーで滑り、楽しむことで、ほとんどの多くのテレマーカーはこれが楽しくてテレマークスキーをやっていることと思います。バックカントリー部はテレマークスキーならではの色々なバックカントリーのノウハウがあり、安全に関すること雪崩、怪我、山の装備のことや快適でかっこいい服装、最新装備、バックカントリーでの滑りのテクニクなど協会が発信すべきものがあります。本格的な雪崩講習やガイド資格などは他団体にお任せるとしてテレマークスキーだけの団体として、テレマーカーの為にやる必要のものもあります。これから地道に行っていきたいと考えています。よろしく願いいたします。

橋内 譲

## 13-14 新年度について

年間スケジュール・新組織図・理事信任投票について

## 12-13 シーズンを終えて

第6回テレマーク技術コンテスト報告

ファストテレマーク 報告



撮影／佐藤 雅彦

写真はBCクリニック in 北海道にて

日本テレマークスキー協会 〒662-0005 兵庫県西宮市湯元町 6-10  
TEL 0798-61-3357 FAX 0798-61-3358 E-mail:info@ski-taj.org